

緑の風

京都教育大学 環境教育実践センター 発行

第5号 2011年 11月11日

管理棟の工夫 懐かしの木々 センター動向（農業実習II開始他） センターの花々 トスミノコエ スタッフから



11月初旬の農場風景

センター管理棟の工夫-太陽光と雨水の有効利用

環境教育実践センター管理棟〔建築面積340㎡、延べ床面積560㎡、梅澤和央施設課長（当時）設計〕は、環境教育の体系的な研究と実践指導および普及活動の拠点として平成8年3月に竣工しました。教員養成とともに、生涯学習に対応する施設として、地域社会への開放のために活用しています。環境教育実践センターという施設の特徴をいかすため、自然エネルギーを積極的に取り入れる技術的な工夫をこらし、環境対策や省エネルギー対策として、太陽光と雨水の利用を行っています。

・太陽光利用

太陽光の利用については、約2KWの太陽電池パネルを屋上に設置して、センター内の昼間の照明電力の約5%をまかなっています。



場の灌漑用水として利用しています。全利用水の約3割をこの雨水でまかっています。実習園に設置されている水道栓を開けると、講義室に隣接して設置されているポンプ室のポンプが作動して雨水が出てきます。雨水が出る実習園内の水道栓には、「この水は飲めません」と表記して、雨水であることを示しています。



（屋上の雨水取り入れ口。ここから地下の貯水槽に雨水が取り込まれる。）



・雨水利用（70トンの貯水）

1階講義室地下に、1ヶ月分の降雨量が貯留可能な70tの雨水貯留槽を設置し、貯留した雨水で実習園の水田や圃

・建物の特徴

建物は小規模であることを考慮し、ホールを中心として廊下を最低限に抑え、共通スペースを効率よく活用するとともに、1階には公開部門として、講義室、展示コーナーを設けて図書資料室が併設され、2階には研究部門として実験関係諸室がまとめて設置されています。そして、外部と内部との中間的スペースであるテラス、バルコニー、ピロティを設け、利用者に自然との関わり等、外部環境への意識が高められるよう配慮されています。



上記のような特徴を有するこの管理棟は、平成8年度の国立学校優秀施設表彰における『文教科施設部長賞』を受賞しています（写真 受賞記念楯）。

なお、その年の受賞施設は全国で7件でしたが、受賞施設の紹介は文教速報第5581号（平成9年2月26日）に掲載されています。（梁川 正）

懐かしの木々(3)

田淵春三 (本学名誉教授)

車窓からみつけたコバノセンナ



黄金色の大きな塊がバスの車窓を横切った。場所は三条通り西大路, 平成15年12月2日のことである。木の花には違いないが, 師走に入っすぐのこのド派手な花の正体は? アカシアの仲間にしては早過ぎるし, といふかりながら直ぐにとって返した。

樹高は2m足らず, その樹冠が5枚の花弁からなる直径5cmほどの黄金色の花で覆い尽くされて, それは見事だ。花の中央にはおしべのうちの2本が円弧を描き, 先端の茶褐色の大きな葯が眉毛のようでユーモアたっぷり。葉は5対の偶数羽状複葉, 丸っこい小葉の周辺がオレンジ色に愛らしく縁取られている。基部の小葉の付く葉軸には1mm前後のイボのような腺があり, その機能の詮索に興味は尽きない。よく観察して帰宅後, 特有の蝶形花ではないが複葉からマメ科として検索しコバノセンナと見当をつけた。



次の日カメラをもって再訪, おうちの方に撮影の許可を求めたら, 花付きの数十cmもある切り枝を2本もいただいた。実物を手にやはりマメ科のコバノセンナ *Cassia coluteoides* に違いなかった。

ジョッキの水に挿しておいたら腋生する総状花序それぞれに数個の花を開き, 年内十分に楽

しませてもらった。年が明けて総ての葉を落としたが4月に可愛い葉を付け始め, 5月には発根に気づいたので鉢上げをした。その後順調に生育し, 11月見事に開花した。冬から春の約半年を水のみで生き延び, さらに生育する強靱な生命力には畏敬の念すら覚えたものだ。それから数年, 毎年花は付けるが結実はしなかった。

センターには *Cassia* 属の植物が欠けていたので平成22年の春, 高校との境界の, 以前に牛を繋留したイボタの木の跡に植栽した。



1m足らずに伸長した幹は開花後に頂部から半分ほどが枯れ込んだが, 春には芽吹き, 10月末には写真のようである。このように耐寒性に少々の問題があるので, 北風を防いだり花が終ってからのやや深い切り戻しが勧められる。この点, 同属でコバノセンナより一ヶ月あまり早く花が咲くハナセンナ *C. corymbosa* は耐寒性もあり, 「アンデスの乙女」の名で市販もされているので街でも稀に眼にすることがある。

この属は500もの種を含む大きなもので, 下剤に用いられるセンナ *C. senna*, 種子が漢方の決明子として強壯, 眼病に効果のあるエビスグサ *C. obtusifolia* など薬効のあるものが多い。日本に自生するのはカワラケツメイ *C. mimosoides* のみである。初冬に相応しい花かちょっと心配だが, 美しい *Cassia* 属の代表としてセンターに定着してほしいと念じている。

農業実習Ⅱ開始

農業実習Ⅱが始まりました。前期に植え付けた稲やさつま芋, ピーナッツや, 農場の柿などの収穫がはじまり, 受講者の歓声があがっています。

- 10月3日 稲刈り
- 17日 脱穀, プリムラ植え付け
- 24日 柿収穫, 渋抜きなど
- 31日 サツマイモ, ピーナッツ収穫, ネギ種まき, 柿試食
- 11月7日 粃スリ, パンジー鉢上げ



トスミノコエ(1)

荒木 光 (本学名誉教授)



四方八方よりも、もっと多くの方面(十隅)からの情報を知り、それについての自分の思いを声に出してみよう、という気持ちを込めて「トスミノコエ」というタイトルをつけました。

実は、もう30年近く前に京都教育大学教職員組合の役員を1年間させて頂いた間、組合新聞に毎号コラムを書かせて頂きましたときのタイトルがこの「トスミノコエ」でした。

今回「トスミノコエ」と名づけたのには、もう少し違った気持ちも込めています。「トスミノコエ」を逆に読みますと「エコノミスト」となります。経済学をほんの少しかじった人間が、逆立ちをして環境問題について語ってみたいという気持ちを込めて「トスミノコエ」と名づけました。

エコノミックアニマルといわれるほど、経済第一と考えて過ごしてきた日本だから環境問題を解決できないのです。経済を全く違った角度から見る必要があるのです。違った角度から見たときに得られる新しい価値観でもって現在の環境問題を分析し、それによって得られた解決策をしっかりと実行することが、日本の環境問題を解決する唯一といえる道なのです。

そのような気持ちを込めて、これから書き綴っていききたいと思います。

定年退職後1年ほど経った時に癌が見つかり、その摘出手術を受けて2年半がたちました。その間、生き続けることの意味をより深く考えるようになっていました。

ようやく落ち着いてきたので、大変お世話になったのに、一別以来50年間、一度もお会いできていない方に会いたい、と思いました。連絡先も全く分かっていませんでしたが、伝手をいろいろと頼って、最近になってようやく消息が分かりました。結果は、15年ほど前に既に亡くなられていました。私より、わずか5歳年上の方でした。

がん摘出時より以上に、もう死んでもおかしくない年齢になってきていることを実感しました。そして、色々な思いが

頭を巡りました。その一つは、何をこの世に残せるだろうかということです。

現代は未来世代にいろいろなものを残します。私たちの生活を楽しんでくれている文明の果実と言えるものが数多くあります。科学の叡智の結晶であるそれらを、未来世代への遺産と考えている人が多いです。代表的なものは、都会の高層ビルや東京スカイツリーやリニア新幹線などです。

実はそれらはすべて負の遺産なのです。それらを未来世代に残すと、すべてお荷物になるのです。早くそれに気づくことができる子供たちを育てることが、本当の意味の環境教育であると思います。

正の遺産を、どれだけ残せるかを真剣に考えているこの頃です。

環境教育への思いを綴ってみました。ご高覧下されば幸甚です。

<http://honkieco.web.fc2.com/>

附属特別支援学校の生徒達が稲刈りをしました

(10月12日)

支援学校の生徒達が、前期に田植えをした稲が見事に実りました。それをみんなで刈り取りました。



中学生「生き方探求・チャレンジ体験」(11月7日~11月11日)

桃山中学校2年生と向島中学校2年生(計8人)が、「生き方探求・チャレンジ体験」にやってきました。月曜から金曜日まで、熱心に体験活動をしています。明るく元気な中学生に、農場が華やいています。(右上写真)



センターの花々

トケイソウ (Passion flower, *Passiflora caerulea*)

中南米原産。まるで時計のような形からこの名前がついた。英名のPassion flowerはキリストの受難にちなんでつけられたという。この場合、passionは受難の意味。時計の針のように見える子房柱が十字架にみたくてられている。

つる性の植物で、センターでは緑のカーテンとして管理棟の壁際に植えられていた。夏の盛りに咲いていたが、今はもう終わってしまった。

500以上の種類があり、その中のクダモノトケイソウ (*Passiflora edulis*) の実がパッションフルーツとして食用される。挿し芽で簡単に増やすことができるそうです。



サツマイモに花が咲いた

サツマイモの花はなかなか見ることができませんが、農場では、昨年に続けて今年も花が咲きました。開花の条件はまだ完全には分かっていないようです。誰か調べてみては?



講演会のお知らせ

「里山の使いみち-研究と実践/過去と未来」

講演者 奥 敬一氏

(森林総合研究所関西支所・森林資源管理研究グループ 主任研究員)

日時 12月12日(月)

13時半-4時

会場 京都教育大学・環境教育実践センター 1F研修室
(附属高校横)

主催 京都教育大学環境教育実践センター

共催 森林総合研究所関西支社

※ 参加自由 無料

駐車場がありませんので、お車での参加はご遠慮ください。

センター時暦

10月

6日(木) 附属幼稚園 サツマイモつる採り。年長児59名と教員3名、学生4名

11日(火) 附属幼稚園 サツマイモ収穫及びセンター見学 年長児、年中児計130名

12日(水) 附属特別支援学校高等部 稲刈り 高等部生徒30名と教員9名

18日(火) 伏見住吉幼稚園 サツマイモ掘り及びセンター内見学

19日(水) 墨染保育所 //

20日(木) 西福寺幼稚園 //

ボランティア「塊の会」活動 センター内清掃、除草、サツマイモ掘りあげ、他

21日(金) うずらの里児童館 //

25日(火) みどり保育園 //

11月

1日(火) 伏見板橋幼稚園 サツマイモ収穫及びセンター見学 年長児、年中児計54名

7日(月)~11月11日(金) 京都市立桃山中学校「生き方探求・チャレンジ体験」2年生女子4名、男子2名 計6名受け入れ、計5日間、京都市立向島中学校「生き方探求・チャレンジ体験」2年生男子2名受け入れ、上記と同日程計5日間

こりゃ何だ!



センターの緑のカーテンから上の写真のようなものが採れました。何だと思いませんか? じつは宇宙芋という山芋のムカゴなのです。その巨大さにはびっくり。山芋と同じように食べることができるそうです。味はまた次号で。

スタッフから

岡本正志

森林総合研究所と共催して、里山についての講演会を行います。エネルギーと環境についての学びと実践を切り拓いていきたいと思っています。どうぞ講演会へご参加ください。

辻 俊夫

先日の実習で稲の脱穀が済みました。稲の収量も昨年より多く、豊作の予感がします。それと稲ワラも状態良好で長いワラが取れました。12月に行うワラ細工が楽しみです。

志賀真人

着任して早一ヶ月がすぎましたが、自然豊かな環境の中で、新しい経験を積み重ねながら日々汗を流しています。センターではさつまいも、落花生、冬瓜、柿等々、実りの秋をむかえ、収穫される方々の笑顔が秋風の中ではじけております。

橋本徳子

実りの秋を迎えました。土の中からは、落花生が。大きく育った蔓には、宇宙芋。さらした柿は甘く透き通った熟し柿に。夏に定植した葉ボタンはお正月が今から楽しみです。そして、収穫と共に、春にむけてパンジーやデージーの苗の植え替えをしています。

編集後記

今号から新たに、荒木先生の連載が始まりました。田淵先生の「木」と共に、荒木先生の「環境論」をお楽しみに。

ご要望に応じて、このレターを環境教育センターのHPにも掲載することになりました。そちらの方もどうぞご覧下さい。(O)

京都教育大学環境教育実践センター 教育改革・改善プロジェクト講演会

日時 2011年12月12日(月) 午後1時半-4時

会場 京都教育大学環境教育実践センター 1F 研修室

伏見区深草越後屋敷町112 (京都教育大学附属高校横)

近鉄伏見駅 徒歩5分、京阪墨染駅 徒歩5分

※ 参加自由 無料

お車での参加はご遠慮ください。

連絡先 環境教育実践センター 岡本研究室

Tel: 075-641-3874 e-mail: okamotom@kyokyo-u.ac.jp

主催 京都教育大学環境教育実践センター

共催 森林総合研究所関西支所



2011年度京都教育大学教育改革・改善プロジェクト講演会

里山の使いみち 研究と実践/過去と未来

講演者 奥 敬一氏

(森林総合研究所関西支所・森林資源管理研究グループ主任研究員)

写真: 滋賀県甲賀市の里山風景